

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2012年12月20日

[テーマ] 「西の西陣、東の桐生」—織物産地の街並みは財産—

桐生は、上毛かるたで「日本の機どころ」と詠まれるように織物が盛んな街だった。「西の西陣、東の桐生」と言われ、その名は全国に知れわたっている。

群馬赴任の前、西陣を訪れる機会があったが、桐生と西陣は共通点が少なくない。どちらも1200有余年の歴史を刻む織物の街であり、鎌倉・室町時代の歴史上の人物（桐生・新田義貞、西陣・応仁の乱時の西軍、山名宗全）とのゆかりも深い。明治時代にはともに、西洋のジャカード機を輸入するなど新たな技術を積極的に取り込んだ。



しかし、近年、輸出競争力の低下などを反映して、地元の産業基盤はどちらも大きく低下した。桐生や西陣のある京都は、機械産業都市へ変貌している。

■ 桐生市・京都市の製造業（2010年）

	桐生市		京都市	
	従業者数	製造品出荷額等	従業者数	製造品出荷額等
繊維工業	1880人 (18.6%)	243億円 (11.6%)	7061人 (10.8%)	720億円 (3.3%)
一般機械	1501人 (14.9%)	355億円 (16.9%)	1万3415人 (20.6%)	3722億円 (17.0%)
電気機械	1201人 (11.9%)	244億円 (11.6%)	9215人 (14.1%)	2929億円 (13.4%)
輸送用機械	2681人 (26.6%)	751億円 (35.8%)	3008人 (4.6%)	1296億円 (5.9%)

※ カッコ内は製造業全体に占める比率。

群馬県・京都市「工業統計調査」から

ただ、古い街並みの保存で桐生と西陣で対応の差がみられる。京都では、先斗町などの観光地には昔の町家が残っているが、西陣付近では大通りを中心に都市化が進み、町家が少しずつ取り壊されている。一方、桐生は「のこぎり屋根」に代表される織物産業が盛んな時代の街並みがほぼ昔のまま残っており、ベーカリー、ワインセラー、アトリエなど、様々な形で利用されている。群馬には、産業が栄えた頃の街並みや集落が意外と残っていないため、桐生の古い街並みは貴重な歴史的財産だ。



こうした中、織物産業の街並みを残す桐生新町が7月、「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）」の指定を国から受けた。市は街並みの保存をいっそう進めるとともに、「重伝建のまち桐生」のキャッチフレーズで観光促進を図っている。桐生織の帯ひもにちなんだとも言われる「ひもかわうどん」や「のこぎり屋根」のゆるキャラ「キノピー」とともに、観光の呼び水となると期待したい。

また、「重伝建」指定を機に、「のこぎり屋根」の下で事業を展開する企業を含め、地域の産業振興への注力が望まれる。桐生市にある群馬大学工学部では、NPO法人・北関東産官学研究会（桐生市）や地域産官学連携ものづくり研究機構（太田市）の活動へ参加するなど、産官学の連携に積極的に取り組んでいる。



古い街並みの中で、学生の柔軟な発想や企業家の情熱を活かして産業振興を地域一体となっていくことが、織物産業で名をはせた桐生の活性化につながるよう願っている。

（ 日本銀行前橋支店長
相良 雅幸 ）